



問 異文化交流、知ることは力になる

答 主体的に関わる機会の提供を多くの子どもに

光風会 恵利 いつ 議員

議員 アイダホフォールズ市との姉妹都市盟約から33年。交流の輪を村民に更に広げるためにも、広報の在り方の工夫や次世代を担う人材育成を見据えた取り組みが必要と考える。

副村長 フェイスブック活用などホットな情報を村民に届けるよう努めている。また、「国際センター」の中に、中学生から大学生までのユースグループが立ち上がり、活動を始めている。今後の活動につなげていきたい。

議員 グローバル社会の今、教育的視点からも海外姉妹都市交流の推進の意義は大きいと考える。

教育長 姉妹都市学生訪問団の受け入れに、子どもたちがユースグループとして主体的に関わったことは素晴らしい。交流会館の活用を先生や

子どもたちにも広げていきたい。

議員 国際的まちづくりを推進する上でのボランティア団体「国際センター」の位置づけについて伺う。

村長 現状として課題は多い。「国際センター」としてしっかり意見交換をし、あるべき姿を模索していきたい。



アイダホフォールズ学生訪問団が東海村議会を体験



問 スポーツ全国大会出場助成金の拡充を求める

答 要綱を見直し、来年度から実施する予定

新和とうかい 河野 健一 議員

議員 現在、村では学校関係のスポーツ大会を除く、全国大会出場が決まった個人・団体に対し、大会出場への助成を行っている。

しかしながら、現在の要綱では個人種目の場合には限度額が1万円、団体種目の場合には5人までが対象となっており、限度額が5万円となっている。野球やソフトボールは9人、サッカーは11人であり、ベンチ入りの選手まで数えると競技者数はさらに増えると思う。

この、団体競技者への助成額5万円について、競技者数などを考慮し見直す必要があると思うが、考えを伺う。

教育次長 最近、団体戦において助成した種目は、卓球（3〜4人）、バレーボール（6人）、5年連続の

野球（9人）があり、限度として5人を超える競技者数の種目がほとんどである。競技者数に応じて限度額を変えるなど要綱の見直しを行い、出来れば来年度からの助成に反映させたい。



総合体育大会での開会式

一般質問